# 学長からのメッセージ

Sapere aude!　自ら考える勇気をもて！

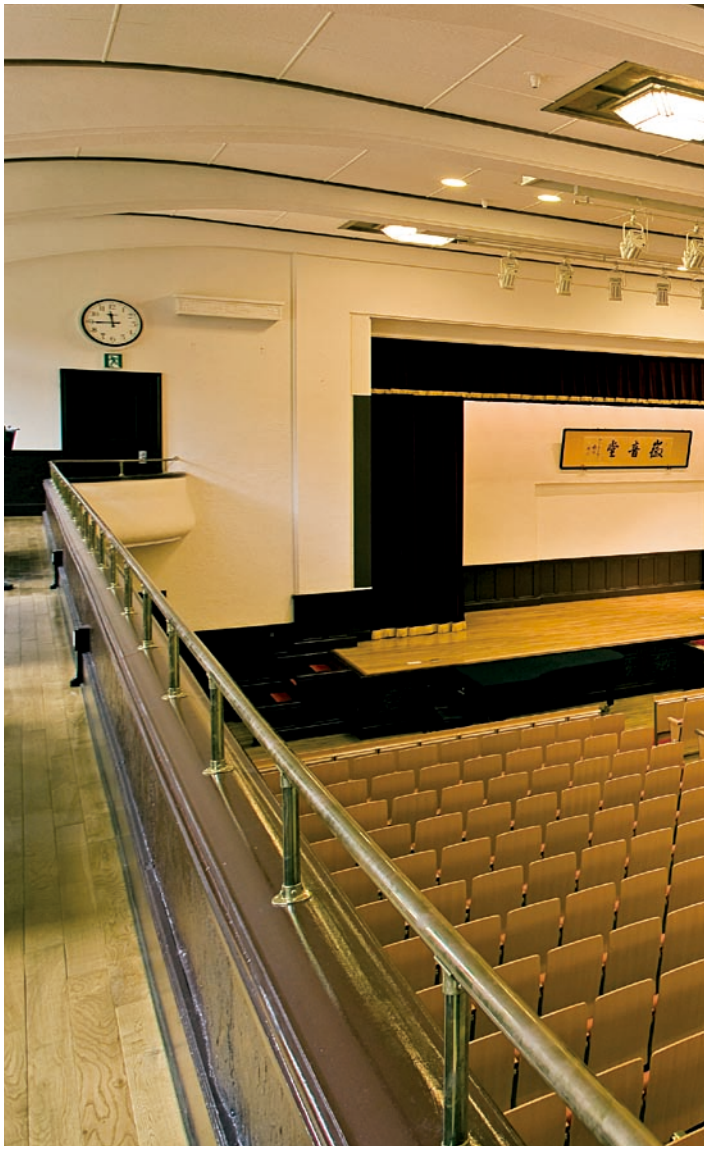
これはドイツの哲学者イマヌエル・カントが「啓蒙とは何か」の冒頭で、ホラティウスの書簡から引用し、啓蒙の標語としたフレーズです。

先行きが不透明な時代にあって、私たちは過去を踏襲するのでは解決できない多くの問題に直面しています。現代は人類が経験したことのない混沌の時代といえるのかもしれません。この蒙を照らし新たに途を啓くのは、自らが主体的に考え判断し、実行する勇気であるといえましょう。

日本のＧＤＰが世界第二位の座を中国に明け渡し、経済情勢がかつてなく厳しい現在、国立の大学には多様な使命が課せられ、また期待も寄せられています。それは、社会資本の投下に見合った成果、つまり社会に資する人材を育成し、研究成果を上げることです。教育も研究も短期的にのみその価値を判断するのは適切ではないことを十分に認識しつつも、大学がどのような人間を社会に送り出そうとしているのか、大学での研究が人類にとっていかなるものであるのかを具体的に示すことも重要です。

お茶の水女子大学は女性のキャリア形成を重視した教育と研究を実践しています。2008 年度に開始した 21 世紀型リベラルアーツ教育や 2011 年４月から開始する複数プログラム選択履修制度はその一部です。ここでの人材育成の目標は、多岐にわたる現代の問題を専門的に分析し、解決の道を見いだす能力の習得です。それは技術的、専門的に高度な能力に加えて、主体的に思考し判断し、それを実行する能力を身につけることを意味します。

また、女性が活躍できる社会の構築に寄与することも国立の女子大学としての本学の使命です。そこで、2011 年４月に全学組織としての男女共同参画推進本部を新設します。すでに 2004 年の法人化の際に女性支援室を設置し、



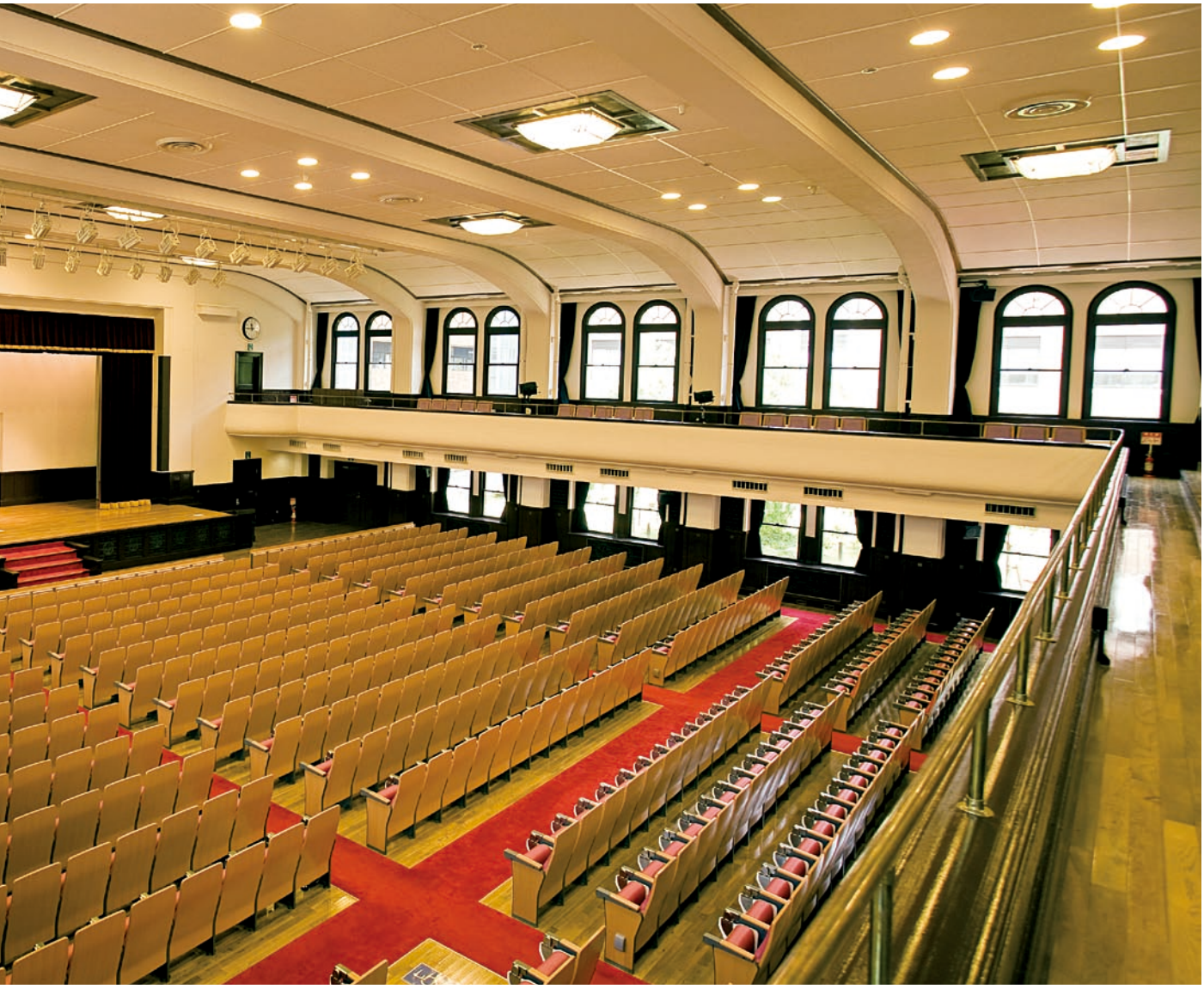
とくに女性研究者支援の取り組みでは、国内外の教育研究機関から注目され高い評価をいただいています。その理由は、135 年間に亘る本学の歴史を通して多くの卒業生が社会的に活躍してきた実績と、その多様なモデルがあること、そして本学自身の働く場としての整備を目指してきたことにあるといえます。今後これらの成果を改めて検証し、広く社会に提案し、それによって潜在化している女性の能力発揮の場を拡大して男女共同参画社会の実現に寄与したいと考えています。

大学という教育研究機関の本質を見失うことなく、国立の女子大学として今求められていることに誠実に応えるべく日々努めてまいります。

この大学で学んだ知が全ての学生にとって、将来、自らの能力を発揮する礎となるに違いないと確信しています。その知を携えて、勇気をもって皆様が活躍されますことを心から期待しています。

2011年春　お茶の水女子大学長

羽入佐和子



# 学長からのメッセージ